

5 GIGA スクール時代の のオンライン授業

1 オンライン道德科授業の可能性

コロナ禍の影響で、教育現場は大変な状況に陥っています。今後の動静によっては、また休業を余儀なくされるかもしれません。新しいことに取り組みにくい状況ですが、このようなときだからこそ、オンライン授業を実施してはどうでしょう。

GIGA スクール構想に関わって文部科学省が動画配信した「学校の情報環境整備に関する説明会」（令和2年5月11日）の説明からも「やれることはすぐにでもやっていこう」という意志が感じられました。

本資料で示したように、オンライン授業には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の可能性が含まれています。特に、オンライン道德科授業は、他の教科と違い子ども一人ひとりの学習状況が異なっているにもかかわらず、不登校の子どもも自宅から参加しやすく、この機会をとらえて不登校問題が解消される可能性もあると考えます。これはGIGA スクール構想の理念である「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ」とも結びつくことです。

2 さいごに

3密を考えると子ども同士で対話によって考えを深めることが難しい今、ICT時代に求められる教育について少し視点を変え、対面授業のよさとオンライン授業のよさを組み合わせ、できることから授業改善に挑戦されてはいかがでしょうか。

やってみよう！ オンライン道德科授業

日文 教授用資料

令和2年（2020年）11月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33532

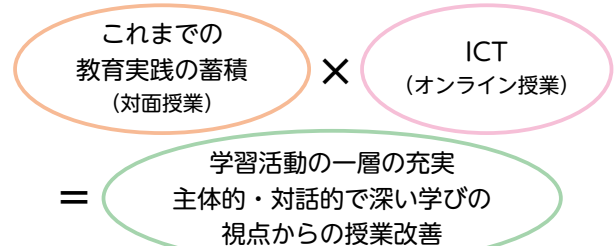
「学校の情報環境整備に関する説明会」 （令和2年5月11日）

<https://www.youtube.com/watch?v=xm8SRsWr-u4>

「新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けた家庭での学習や校務継続のためのICTの積極的活用について（4月23日事務連絡）」に関する説明（動画21:30～28:20の要旨）

- ・ICT，オンライン学習は学びの保障に大いに役立つ
- ・使えるものは何でも使って、
（家庭のパソコン、家族のスマホ）
- ・できることから、できる人から、
（「一律にやる」必要はない）
- ・既存のルールにとらわれず臨機応変に、
（「ルールを守ること」は目的ではない）
- ・何でも取り組んでみる。
（現場の教職員の取組をつぶさない）

GIGA スクール構想



「（リーフレット）GIGA スクール構想の実現へ」文部科学省による。
（ ）内は筆者による加筆

GIGA スクール構想の加速による 学びの保障

- ・児童生徒の端末整備支援
 - ・学校ネットワーク環境の全校整備
 - ・GIGAスクールサポーターの配置
 - ・緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備
- 「（リーフレット：追補版）GIGA スクール構想の実現へ（令和2年度補正）」文部科学省による

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

日文 教授用資料

やってみよう！

オンライン道德科授業

—「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善—

関西外国語大学

教授 太田 和男



もくじ

- 1 オンライン授業による道德科の授業改善
- 2 オンライン道德科授業の事前準備
- 3 オンライン道德科授業の実践例
- 4 オンライン道德科授業の利点
- 5 **GIGA スクール時代**のオンライン授業

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！

日文

検索



未来をにう子どもたちへ

日本文教出版

※本冊子掲載 QR コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

※ QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

1 オンライン授業による 道徳科の授業改善

1 はじめに

小学校では令和2年度から、中学校でも令和3年度から新学習指導要領が完全実施されます。新学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）が示されており、各学校で取り組まれていることと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響で、3密（密閉、密集、密接）対策などを考えると従来のような対面授業の実施が困難な状況とも言えます。そのため学校によっては、授業時数を確保するためにオンライン授業の実施を余儀なくされています。

また、文部科学省のGIGAスクール構想では、子どもの1人1台端末、学校ネットワーク環境、緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備などが目指されています（GIGAスクール構想についてはp.8参照）。このようにICT環境が整いつつある状況だからこそ、オンライン授業をととした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が望まれます。

2 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の目的は、子どもたちが生涯にわたり能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることで、子どもたちが学習内容を深く理解し、必要な資質と能力を身に付けられるよう、学習の質向上に向け授業の進め方を改善することとされています。道徳科では、「考え、議論する道徳」によって「主体的・対話的で深い学び」を実現することになります。

この点を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指して、本資料ではウェブ会議ツールであるZoomを使用したオンライン授業を提案します。



「主体的な学び」

- ・学ぶことに興味や関心を持つ
- ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
- ・見通しをもつ
- ・粘り強く取り組む
- ・自己の学習活動を振り返って次につなげる

「対話的な学び」

- ・子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・先哲の考え方を手掛かりに考える

「深い学び」

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解する
- ・情報を精査して考えを形成する
- ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（検討メモ）」令和2年6月 国立教育政策研究所による

※ Zoom および Zoom（ロゴ）は、Zoom Video Communications, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※ 教育機関で Zoom を使用する際は、最新の規約をご確認ください。

2 オンライン道徳科授業の 事前準備

1 事前学習の基本的な考え方

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、事前学習がとても大切です。この事前学習の考え方はオンライン授業だけでなく、教室での対面授業にも活用できるもので、効果的に「主体的な学び」から「対話的な学び」へとつなげることができます。

まず、子どもには授業前日までに家庭で教材を読み、道徳ノートに基本発問などについて各自が考えた意見をまとめるように指示します。こうすることで「自分はこう考えたけれど、友達の考えはどうだろう。」のように授業に対する興味が深まり、学ぶことに興味や関心をもつ、学習の見通しをもち粘り強く取り組むという「主体的な学び」が実現できます。

また、事前に教材読解まですませておく、基本発問について各自が考えておくことで、オンライン授業の当日は、導入や基本発問がスムーズに進み、中心発問や補助発問についてグループで話し合う時間を多く取ることができるため、より「対話的な学び」が実現しやすくなります。

2 主に使用する Zoom の機能

教員同士で試して各種機能に慣れておきましょう。本資料では Zoom を使用しますが、他のウェブ会議ツールにも同様の機能がある場合があります。

- ①画面共有：パワーポイント、ワードなどで作成した資料の画面を提示し、共有する。
- ②挙手／反応：子どもが発言の意思や、拍手やグッドの意思を示す。
- ③投票：子どもが多肢選択の質問に投票する。
- ④チャット：子どもが文字で意見を発表する（チャット履歴は評価の資料として保存可能）。
- ⑤ブレイクアウト：子どもがグループに分かれてグループワークを行う。
- ⑥レコーディング：授業の過程を録画する（評価や授業研修の資料として活用可能）。

オンライン授業実施までの事前学習

①前時の授業の最後

子どもに、次の授業で学習する教科書の教材と事前学習の課題（基本発問含む）を連絡する。



②授業の前日まで

子どもは道徳ノートを活用して、次の課題をしておく。

- ・教材を読む。
- ・基本発問に対する自分の意見を書く。

※中心発問と補助発問については、オンライン授業当日に考えさせる。



③当日の授業前

子どもは、前日または当日の朝読書の時間などを使って、再度教科書の教材を読み、道徳ノートを使って自分の意見を確認する。

3 オンライン道德科授業の 実践例

次の授業は、筆者が大学生に対して行ったものです。ここに示した手法や流れを、小学校や中学校でのオンライン授業に活用してください。

- ・教材名：「手品師」（『小学道德 生きる力6』日本文教出版）
- ・内容項目：A 正直，誠実（小学校高学年…誠実に，明るい心で生活すること。）
- ・ねらい：大劇場のステージに立てるチャンスを断り，男の子との約束を守った手品師の誠実さに触れることで，どのような状況にあっても，常に誠実に行動し，明るい生活をしようとする心情を育てる（指導案は p.6 参照）。

1 導入

①教材提示：画面共有し，指導者用デジタル教材に収録されている「手品師」の朗読動画（紙芝居風）を見せる。

【デジタル教材の活用】

※子どもは事前学習で教材を読み，道德ノートに基本発問に対する自分の意見を書いているので，スムーズに授業の導入ができる。

②基本発問1：画面を「ギャラリービュー」（参加している子どもの画面を均等に表示）にして，「このお話に登場する手品師は，どんな手品師でしたか。」を問いかける。子どもは，事前に考えたことを道德ノートから発表する。

※発言する際は，「挙手」や「反応」を使って発言する意思を示す。

【ICT機能：挙手／反応】

2 展開

①基本発問2：画面は「ギャラリービュー」のまま，「男の子と約束をした手品師は，どんなことを考えていたでしょう。」を問いかける。基本発問1と同様，子どもは考えたことを道德ノートから発表する。

※発言する際は，「挙手」や「反応」を使って発言する意思を示す。

【ICT機能：挙手／反応】



指導者用デジタル教材による教材提示

基本発問1に対する反応

- ・腕のいい手品師。でも，有名ではない。
- ・暮らし向きはよくない。
- ・いつも大劇場で手品をしたい，と思っている。



ギャラリービュー



反応

基本発問2に対する反応

- ・明日も予定はないし来ることにしよう。
- ・どうせ暇なら，来てやるか。
- ・自分の手品で元気になってくれて，うれしいな。

②基本発問3：「あなたが手品師なら，男の子の元に行きますか。劇場に行きますか。」を問い，子どもは「投票」で意思表示する。そのあと結果を共有し，理由について発言を促す。

【ICT機能：投票】

③中心発問：「どんな思いから，手品師は男の子との約束を選んだのでしょうか。」を問いかけ，子どもは自分の意見を道德ノートに書く。

※中心発問は，授業当日に考えさせる（事前に考えさせてもよい）。

④グループワーク：「ブレイクアウト」を使い，子どもは5名程度のグループで話し合う。

【ICT機能：ブレイクアウト】

※話し合う時間を指定し，その後，教師は各グループに参加して話し合いの様子を確認する。

⑤全体で共有：グループから再び「ギャラリービュー」に戻り，グループでの話し合いで出た意見を共有する。

※教師は，子どもにグループでの学習時間の終了を知らせ，代表者に発表を促す。

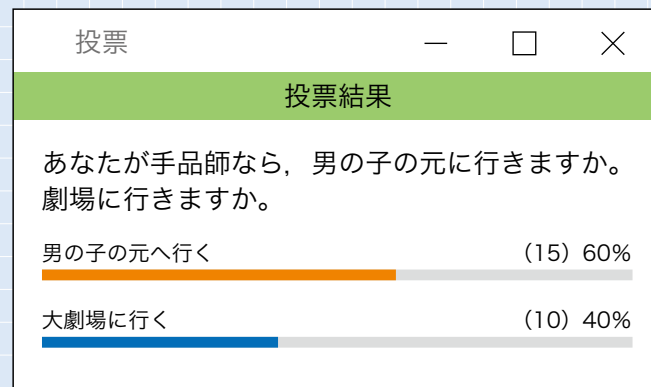
⑥補助発問：「ギャラリービュー」のまま，「たった一人のお客様を前に，手品師はどんな気持ちで手品を演じていたでしょう。」を問いかける。

3 終末

子どもは「チャット」を使って，本日の授業の感想などを書く。

【ICT機能：チャット】

※道德ノートにも学んだことを書くことと，道德ノートの振り返り欄に○をつけて自分の学習を振り返ることを指示する。また後日，感想を道德通信に掲載することを伝える。



投票

基本発問3に対する反応

- | | |
|---|---|
| 【男の子の元へ行く】 <ul style="list-style-type: none"> ・約束したんだから行かないと……。 ・放っておけない。 ・自分の良心に恥じないようにする。 | 【大劇場に行く】 <ul style="list-style-type: none"> ・有名になりたい。 ・暮らし向きを少しでも楽にしたい。 ・男の子も来るかどうか分からない。 |
|---|---|



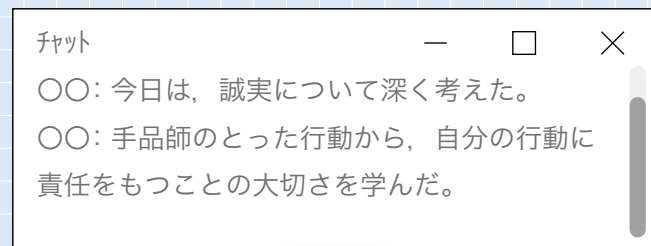
ブレイクアウト

中心発問に対する反応

- ・男の子は，自分のことを待っているんだ。
- ・約束を破ったらきっと後悔するだろう。
- ・自分が信じる生き方をしたい。

補助発問に対する反応

- ・すがすがしい気持ちで手品ができる。
- ・約束を守ってよかった。この笑顔が見たかった。
- ・自分に誠実に行動してよかった。



チャット

4 オンライン道德科授業の 利点

4 指導案

	主な発問と予想される子どもの発言	指導上の留意点（○），評価（★）								
導入	(1) 教材への関心を高める。 ○基本発問1「このお話に登場する手品師は、どんな手品師でしたか。」 ・腕のいい手品師。でも、有名ではない。 ・暮らし向きはよくない。 ・いつも大劇場で手品をしたい、と思っている。	○指導者用デジタル教材に収録されている「手品師」の朗読動画（紙芝居風）を見せる。子どもは事前学習で教材を読んでいるので、スムーズに授業の導入ができる。【デジタル教科書活用】 ○事前に考えたことを道徳ノートから発表させる。発言の際は、「挙手」や「反応」を使って発言する意思を示すよう促す。【ICT機能：挙手／反応】								
展開	(2) 教材「手品師」をもとに考え、話し合う。 ○基本発問2「男の子と約束をした手品師は、どんなことを考えていたでしょう。」 ・明日も予定はないし来ることになよう。 ・どうせ暇なら、来てやるか。 ・自分の手品で元気になってくれて、うれしいな。 ○基本発問3「あなたが手品師なら、男の子の元に行きますか。劇場に行きますか。」 <table><tr><td>【男の子の元へ行く】</td><td>【大劇場に行く】</td></tr><tr><td>・約束したんだから行かないと……。</td><td>・有名になりたい。</td></tr><tr><td>・放っておけない。</td><td>・暮らし向きを少しでも楽にしたい。</td></tr><tr><td>・自分の良心に恥じないようにする。</td><td>・男の子も来るかどうかわからない。</td></tr></table> ○中心発問「どんな思いから、手品師は男の子との約束を選んだのでしょうか。」 ・男の子は、自分のことを待っているんだ。 ・約束を破ったらきっと後悔するだろう。 ・自分が信じる生き方をしたい。 ○補助発問「たった一人のお客様を前に、手品師はどんな気持ちで手品を演じていたでしょう。」 ・すがすがしい気持ちで手品ができる。 ・約束を守ってよかった。この笑顔が見たかった。 ・自分に誠実に行動してよかった。	【男の子の元へ行く】	【大劇場に行く】	・約束したんだから行かないと……。	・有名になりたい。	・放っておけない。	・暮らし向きを少しでも楽にしたい。	・自分の良心に恥じないようにする。	・男の子も来るかどうかわからない。	○事前に考えたことを道徳ノートから発表させる。発言の際は、「挙手」や「反応」を使って発言する意思を示すよう促す。【ICT機能：挙手／反応】 ○各自「投票」で意思表示させ、そのあと結果を共有し、理由について発言を促す。【ICT機能：投票】 ○手品師の気持ちに注目するように指示し、手品師の多様な思いを考えさせる。 ○自分の意見を道徳ノートに書かせたあと、「ブレイクアウト」を使い、5名程度のグループで話し合わせる。教師は各グループに参加して話し合いの様子を確認する。【ICT機能：ブレイクアウト】 ○何が決め手になったか、誰のために約束を守ったのかを考えさせる。 ○グループでの学習時間の終了を知らせ、グループでの話し合いで出た意見を代表者に発表させ、共有する。 ★「誰のために約束を守ったのか」を考えさせることによって、男の子を思う「誠実さ」だけではなく、自分自身の生き方に対する「誠実さ」を感じ取れたか。 ○後悔していないすがすがしい気持ちに気づかせ、誠実に行動することに喜びを感じる手品師に共感させる。
【男の子の元へ行く】	【大劇場に行く】									
・約束したんだから行かないと……。	・有名になりたい。									
・放っておけない。	・暮らし向きを少しでも楽にしたい。									
・自分の良心に恥じないようにする。	・男の子も来るかどうかわからない。									
終末	(3) 学んだことを各自まとめ、自己評価する。	○「チャット」を使って、本日の授業の感想などを書かせる。【ICT機能：チャット】 ○道徳ノートにも学んだことを書くことと、道徳ノートの振り返り欄に○をつけて自分の学習を振り返ることを指示する。また後日、感想を道徳通信に掲載することを伝える。								

1 授業中の利点

オンライン道德科授業では、子どもたちは周りを意識せず画面に集中し、デジタル教科書を通して主体的に学ぶことができ、それと同時に教室での授業以上に双方向授業を受けている感覚を得ることができます。

例えば、投票機能を使うと、子どもは自分の考え（投票）を知られることなく他の子どもの考え（投票結果）と比較することができます。次に、チャット機能を使うと、自分の意見を全員に送るだけでなく教師にだけ送ることもできるので、教師をとおして自分の意見を発言することも可能となります。これらのことから、特に発言の苦手な子どもにとっては、普段の授業よりも周りを意識せずに自分の意見をはっきり発信できるのです。

また、ブレイクアウト機能を使ったグループの話し合いでは、子ども同士で協働（協力して共に学習を進める）し、意見交流をとおして「対話的な学び」を深めることができます。そして、グループから全体に戻り、話し合った意見を発表することで学習をより深めることができます。

さらに、オンライン道德科授業ではゲストティーチャー（地域の方や専門家など）が参加しやすいため、その方々との対話から深く学ぶことができます。

2 授業後の利点

オンライン道德科授業では授業の録画もしやすいため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を目指す上での研修資料になります。また、授業の録画は子どものパフォーマンス評価にも役立ちます。

さらに、授業後にあらためて道德ノートを確認する、授業で考えたことを道德ノートに書くなど、道德ノートの活用と結びつけることで「主体的な学び」がより深まります。道德ノートは、子どもの心の成長の軌跡といえますので、おのずと子ども一人ひとりの評価につながります。

